

第5学年1組 道徳学習指導案

平成23年10月18日(火) 第5校時

在籍児童数 男子21名 女子12名 計33名

指導者 教諭

場所 5年1組教室

1 主題名 あなたの命は宝物 3-(1) 生命尊重

2 資料名 「わたして 何」 出典 埼玉県道徳教材資料集「夢にむかって」

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

本主題である高学年の内容項目3-(1)は、「生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する。」となっている。これは、生きることの尊さを知り、自他の生命を尊重して力強く生きようとする心を育てるとともに、生命に対する畏敬の念を育てようとする内容項目である。この内容項目は低学年の「生きることを喜び、生命を大切にすることを持つ。」中学年の「生命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切にする。」を受けたものであり、中学校において、3-(1)「生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する。」に発展していく。

すべての道徳的価値は、生命が存在し尊重されて成り立つものである。よって、自他の生命の尊さを実感し、慈しむことのできる心情や態度を育成することが大変重要である。また、生命に対する畏敬の念をもたせ、生きることの尊さやすばらしさを自覚できるようにすることが大切である。

高学年の段階においては、家族や動植物などの身近な環境における生活経験の深まりや抽象的な思考ができる発達段階であることから、生命の誕生から死に至るまでの過程を理解することができる。これらの理解をもとに、生命のかけがえのなさを自覚させていくことが大切である。個々の生命は一つしかなく、家族によって支えられてきたかけがえのないものである。これらのことに気付かせ、生命の重みを実感させることが大切であり、児童が生命を見つめ、輝かせていこうとする気持ちをもたせることが生命尊重の精神につながっていくものと考えられる。

(2) 児童の実態について

(※児童の実態は、HP上では消してあります。)

児童に行った意識調査の結果は以下のようであった。

1 心が傷つけられた時、どんな気持ちになりましたか。

・いやな気持ちになった。	17人	・イライラした。	3人
・学校に行きたくない。	5人	・食欲がなくなった。	1人
・悲しくなった。	13人	・気分が悪くなった。	1人
・何もやりたくない。	1人	・暗い気持ちになる。	1人
・この世にいないほうが良いと思った。	1人	・苦しい。	1人
・不安。	1人	・くやしい。	1人
・落ち着かなくなり何も手につかない。	1人	・自分の態度を振り返った。	1人

- 2 どんな時に、生きていますか。 (*なぜ、そう思いますか。)
- ・友達と遊んでいるとき。 2 1人 (楽しいから。気持ちがすっきりするから。)
 - ・うれしいことや楽しいことがあった時。 4人 (心がはずむから。心が軽くなるから。)
 - ・家族との団らんの時。 6人 (気持ちが明るくなる。ほっとする。)
 - ・「ありがとう」と言われた時。 2人 (うれしい。人の役にたっていると思うから。)
 - ・ほめられたりやさしくされたりする時。 5人 (うれしいから。やって良かった。)
 - ・ペットと遊んでいる時。 1人 (心がなごむ。)
 - ・友達と協力して行動した時。 2人 (一人じゃないと感じるから。頑張ろうと思う。)
 - ・美しい景色を見ている時。 1人 (感動するから。)
 - ・励まされたり励ましたりする時。 3人 (そんな仲間がいると言う気持ちになる。)
 - ・大震災のあった後。 1人 (生きていて良かったと思った。)
- (そんな仲間がいる。)
- 3 「死」に対してどんなイメージを持っていますか。
- ・こわい。 2 3人
 - ・死んでしまうと何もできない。 8人
 - ・死にたくない。 3 3人
 - ・あまり深く考えたことがない。 2 8人
 - ・地獄に行く。 2人
 - ・死んでもリセットできる。 3人

アンケートの結果、自分の心が傷つけられた時は、暗く落ち込むだけでなく体の不調も訴えることがある。また、場合によっては死を意識することもあるということがわかった。

それから、自分が生きていますと感じるのは、友達と遊んだり勉強したりと、学校生活の中で友達と一緒にいろいろな活動をしている時が一番多かった。その次は家族との団らんや一緒に出かけたりする家族とのふれ合いが子どもたちにとっては大切なようだ。今回、一人ではあったが大震災を体験して、生きていくことのありがたさを感じた子がいて、大震災が児童に与えた影響を痛感した。

「死」に対してのイメージは、こわい、死にたくないという意見がある反面、あまり「死」に対して深く考えないという意見があり、アンバランスな子どもたちの心の内が感じられた。

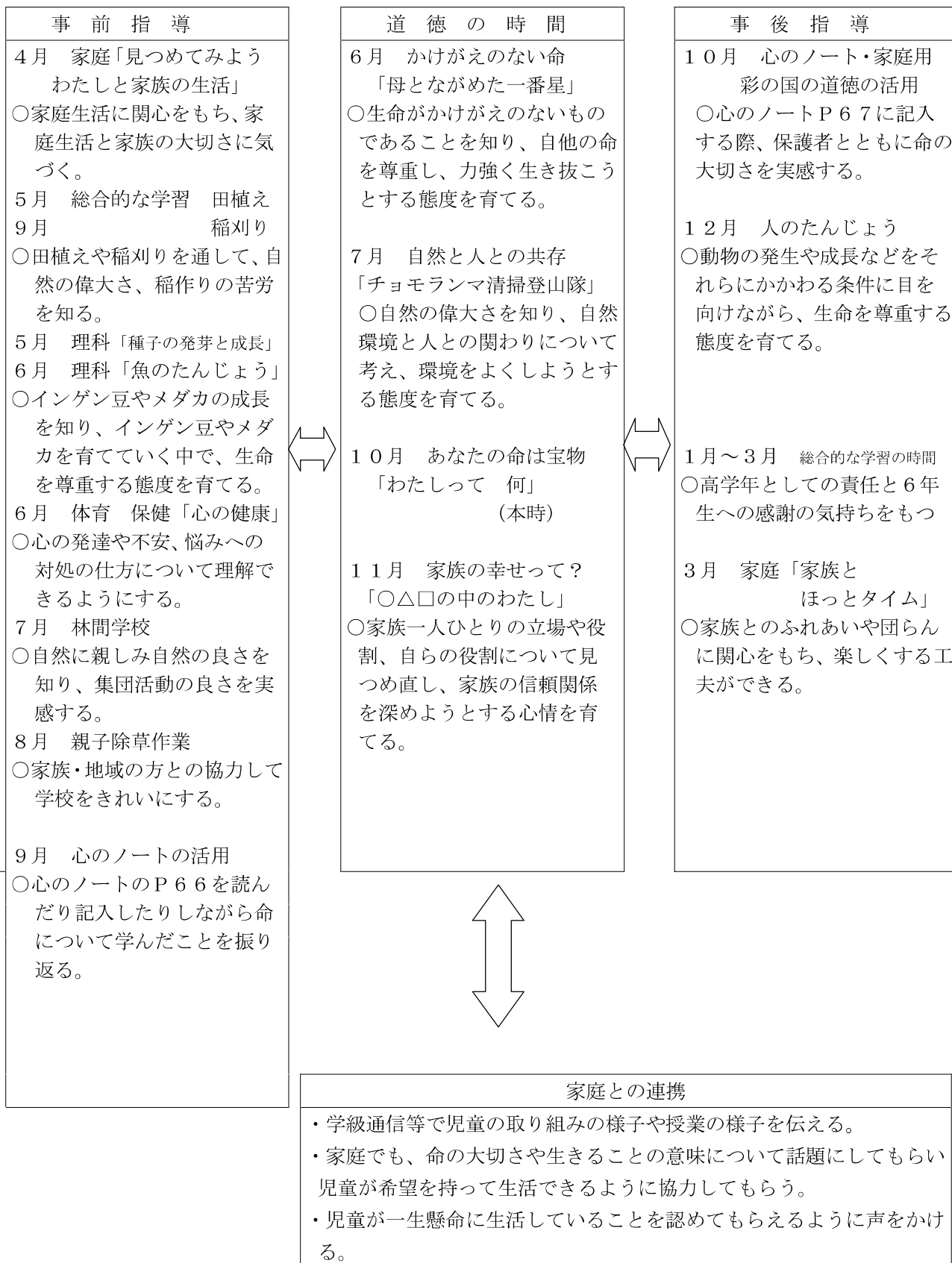
以上のことから、生命の尊さをより深く実感させ、児童がこの世にたった一つしかない命を見つめ、輝かせていこうとする気持ちをもたせたい。また、自分と同じように他の人間も大切な命をもっていることを理解し、自他の生命を尊重する態度を育てていきたい。

(3) 資料について

主人公の幸恵は、芸人の「おまえは、この世から去れ！」というギャグをおもしろいと思い、クラスの友だちと楽しく会話していた。しかし、ある日、教室そうじをしていたとき小さな封筒を拾い、家でこっそり読むと、自分が「この世から 去れ！」と書かれていて深く心が傷ついた。幸恵が自分の存在価値を見失ったとき、生まれたときの家族の写真に気付き、お母さんの「幸恵は家族の宝物よ。」という言葉聞いたことで、生きていくことの大切さや自分の存在について深く考え、新たな思いをもつという内容である。

本資料では、心が傷つき自分の存在を見失った時の幸恵の苦しさや悲しさをじっくり考えさせたい。また、親から授かった命がかけがえのないものであることを実感し、暗闇からぬけ出していく幸恵の心の変化を考えさせ、生きていくすばらしさに気付かせ、自他の命も大切にしていこうというねらいに迫ってきたい。

4 他の教育活動との関連



5 本時の学習活動

(1) ねらい

・生命がかけがえのないものであると感じ取り、自他の存在を大切にしようとする心情ともに、生きていることの喜びを感じながら精一杯生きていこうとする心情を育てる。

(2) 展開

段階	学習活動 ・ 主な発問	予想される児童の反応	・ 指導上の留意点 ☆評 価	時間 資料
導 入	1 相田みつをさんの「自分の番」を読んで、命について話し合う。	・命はつながっている。 ・命はみんなにある。 ・命は大切だ。	・詩を読んで「命」について話し合い、命について学んでいこうとする意欲をもたせる。	3分 詩
展 開	2 資料の条件・状況を知り話を聞く。		・幸恵の立場になって考えさせ、話題を児童とともにつくる	7分
	登場人物 幸恵（主人公）お母さん 条件・状況 ・芸人の「おまえは、この世から去れ！」というギャグをおもしろがる幸恵と友達 ・母は心配するが「大丈夫」とはねのける幸恵			
	3 心に残ったことを発表する。		☆心に残った場面を見つけ、話し合う意欲を高められることができたか。	
深 め る	4 主人公の心の変化を中心に話し合う。 (1) 友だちとおしゃべりをしていて「この世から去れ！」という言葉を使っている時、幸恵はどんな気持ちだったでしょう。	・芸能人が使う言葉って、おもしろいな。 ・みんなと話していると楽しいな。 ・よくない言葉だってわかっているけど、友だちと一緒にだどつい使っちゃう	・悪い言葉とわかっているけども友だちと一緒にだと盛り上がってしまい、つい使ってしまう幸恵の気持ちに共感させる。 ・「この世から 去れ！」という言葉の意味について考えさせる。	7分 絵
	(3) 「わたしって何なのだろう。」と一人で部屋の中で考えていた時、幸恵はどんな気持ちだったのでしょうか。	・なんてひどいのだろう。 ・誰も信じられない。 ・学校へ行きたくない。 ・もう死んでしまいたい。 ・みんなから嫌われているんだ。 ・わたしは、いらぬのかな。	・「この世を 去れ！」という文字を読んだときの幸恵のショックや驚きと、一人で部屋にこもり、自分の存在に否定的になる幸恵の苦しさやつらくやりきれない気持ちに共感させる。	8分 場面 絵
	(4) お母さんから「幸恵は家族の宝物よ。」と言われた時、幸恵はどんな気持ちだったのでしょうか。	・お母さんは、わたしのことをわかってくれている ・お母さん、ありがとう。 ・ほっとしたよ。 ・わたしは、一人じゃないんだ。 ・わたしには、わたしを支えてくれる人がいるんだ ・友達と使っていたギャグは、人を傷つける言葉だったな。 ・明日からも、頑張ろう。	・幸恵は家族にとって大切な存在であること、家族が自分のことを大事に思ってくれることに気づき、自分の命が自分だけのものでないことに気づいたことを捉えさせる。 ・今まで、自分が使ってきた何気ない言葉が人を傷つけることがあることに気づき自分だけでなく周りの人も大切にしようとする意識を促す。	8分 場面 絵

見 つ め る	5 家族からの手紙を読み、ワークシートに感想を記入する。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分は家族に大切に育てられてきたんだ。 ・かけがえのない命を大切にしよう。 ・自分が生きているのは、周りの人の支えがあるからなんだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生きていることの大切さ、家族のすばらしさについて気づき、自他の命を大切にしようという心情を高める <p>☆かけがえのない命の大切さを知り、自分だけでなく他の人の命も大切にしようという心情が深まったか。 (ワークシート・発表)</p>	8分 ワークシート
終 末 た め る	6 保護者の話を聞く。		<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが周りの人に見守られながら、ここまで成長してきたことを実感し、命の尊さをじっくりと味わわせる。 	4分

6 評価の観点

・生命がかけがえのないものであることを感じ取り、自他の存在を大切にしようとする心情ともに、生きていることの喜びを感じながら精一杯生きていこうとする気持ちをもつことができたか。

7 板書計画

場面絵

相田みつを
さんの詩

わたしって 何


自分の命を大切に、
せいじつばい生きていこう！

一人 部屋の中

「わたしって 何なのだろう。」

- ・なんてひどい。
- ・だれも信じられない。
- ・嫌われているんだ。
- ・学校に行きたくない。
- ・死にたい。

小さな
紙切れ



幸恵

場面絵

場面絵

場面絵

「幸恵はお母さんの宝物よ。」

- ・お母さんのおかげで勇気が出た。
- ・お母さん、ありがとう。
- ・わたしは、一人じゃない。
- ・わたしを支えてくれる人がいる。

友だちとの会話

「この世から 去れ！」

- ・芸能人の使う言葉を使うって楽しい。
- ・おもしろいギャグだな。
- ・友だちと一緒にだど、つい使っちゃう。

「この世から 去れ！」

- ・シヨック。
- ・悲しい。
- ・だれがこんなことを、